
ボリンジャーバンドの 使い方・見方

ボリンジャーバンドの 使い方・見方

移動平均線を中心にバンドが表示され、バンドの幅やローソク足との関係を元にエントリーポイントを判断していきます。

ボリンジャーバンドは、統計学を元にした
トレンド系のテクニカル指標です。

アメリカの投資家、ジョン・ボリンジャー氏が考えたテクニカルなので、ボリンジャーバンドと呼ばれています。略してボリバンとも呼ばれます。

標準偏差を為替に応用して、これからのチャートの動きを予測します。



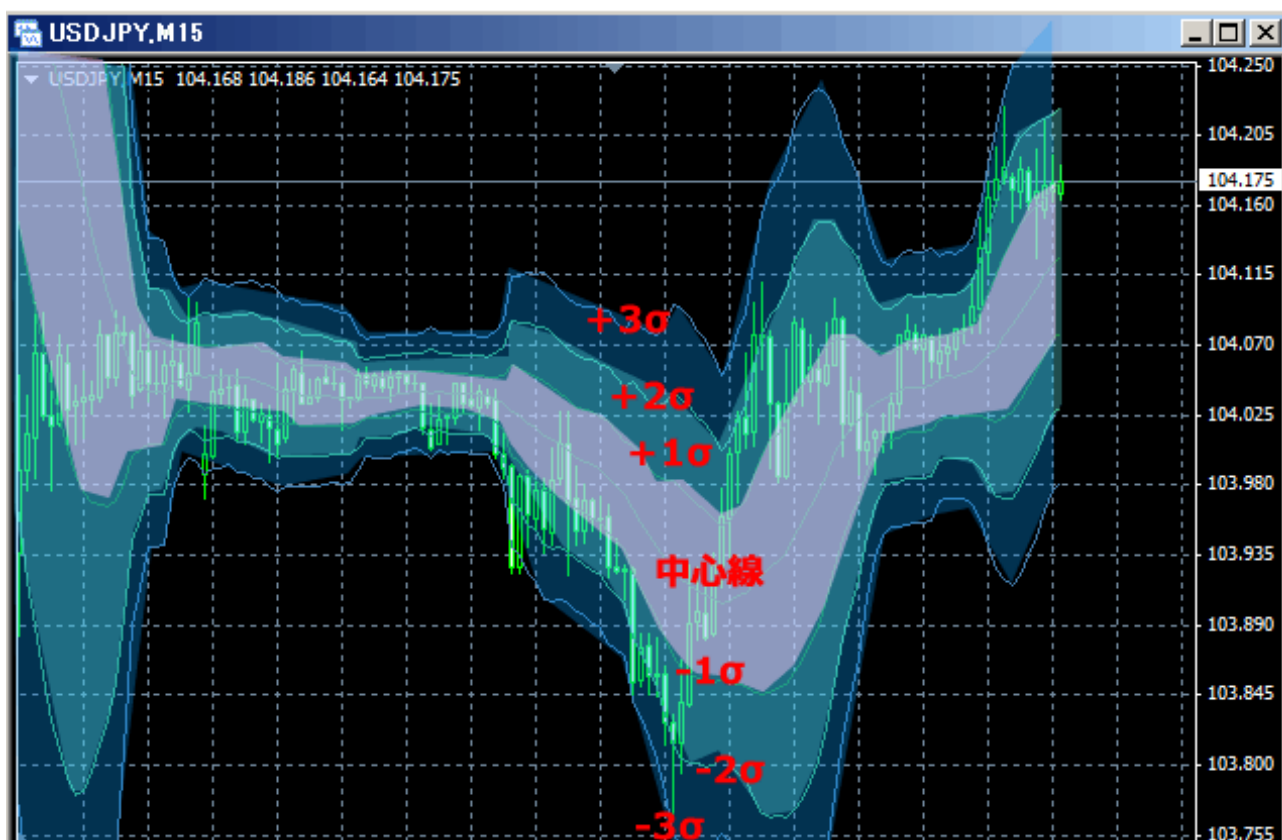
これが、MT4 でボリンジャーバンドを表示したもので罫線分析ツールに、「**Bollinger Bands**」という項目があるはずです。

A screenshot of the "Bollinger Bands" parameter dialog box in MT4. The dialog has three tabs: "パラメーター" (Parameters), "レベル表示" (Level Display), and "表示選択" (Display Selection). The "パラメーター" tab is active. It contains the following settings: "期間" (Period) is set to 21; "表示移動" (Display Shift) is set to 0; "偏差" (Deviation) is set to 1; "適用価格" (Apply Price) is set to "Close"; "スタイル" (Style) is set to "DarkGreen". At the bottom, there are three buttons: "OK", "キャンセル" (Cancel), and "リセット" (Reset).

挿入時のパラメータは、標準では期間が 20 になっているのでそのまま大丈夫です。この期間とは、移動平均線のことで、ボリンジャーバンドの中心線になります。

偏差は 1～3 で 3 つ表示され、これが $\pm 1\sigma$ 、 $\pm 2\sigma$ 、 $\pm 3\sigma$ を表します。

$\pm 1\sigma$, $\pm 2\sigma$, $\pm 3\sigma$ の意味



ポイント

- ・バンドの±1σの範囲内に収まる確率…約68.3%
- ・バンドの±2σの範囲内に収まる確率…約95.4%
- ・バンドの±3σの範囲内に収まる確率…約99.7%

ボリバンは、値動きが一定の値幅に収まる確率を統計学の手法で計算したものです。

ボリンジャーバンドの σ （シグマ）とは標準偏差のことで、**価格がどれだけ動く可能性があるのかを表すのが σ** です。

σ は、レートがその中で動く目安になるラインです。全体の68%が±1 σ 内で動き、95%が±2 σ 内で動き、99%が±3 σ 内で動きます。

ボリバンの中心線は平均値で、平均に近いほど、そこに滞在する可能性が高くなりますので、2 σ ～3 σ に滞在する時間は多くありません。

ボリンジャーバンドと RSI の 順張り・逆張りでの手法

ボリンジャーバンドと RSI の 順張り・逆張りでの手法

トレンド系指標のボリンジャーバンドと、
オシレーター系指標の RSI は、どちらも人気がある
テクニカル指標で、この2つを組み合わせ
てエントリーポイントを判断します。

ボリンジャーバンドと RSI を組み合わせることで、
トレンド発生時にもレンジ相場の時にも対応できる
のと、順張り
と逆張りの両方でエントリーできるの
もポイントです。

ボリバンと RSI の順張りでの手法

順張りの場合は、上昇トレンド中の押しや、下降トレンド中の戻りの場面を狙います。



順張りで HIGH の場合は、ボリバンの -2σ から反発した時に、RSI が 30 以下で推移している時がポイントです。

-2σ から下ヒゲを付けて戻した後に、陽線が出た所などがポイントになりますが -3σ にタッチするような時は、**強いトレンドが発生する可能性**もあります。



順張りの売りの場合は、ボリバンが $+2\sigma$ で反発した時に、RSIが70以上の時がポイントです。

確実に $+2\sigma$ で反発したのを確認してから入りますので、エントリーポイントは陰線が出て足の実体が $+2\sigma$ から離れたところになります。

$+3\sigma$ にタッチするほどトレンドが強くなく、 $+2\sigma$ にタッチしつつ上昇している時に、反転した時を狙います。

ボリバンと RSI の逆張りでの手法

逆張りの場合は、トレンドの勢いが落ちてきた時や、レンジ相場を抜けてトレンドを発生しそうな時を狙います。

■ 買い



逆張りの買いの場合は、ボリバンの -3σ にタッチした時に、RSI が 30 以下で推移している所を狙います。

この時は、ちょうど RSI のダイバージェンスが発生している時で、トレンドが弱まっていることを示唆しています。

-3σから確実に反発したのを確認してから入ってもいいですが、大きな利益を上げるために、タッチした時点で入ります。

ダイバージェンスとは、日本語では「**逆行現象**」と呼ばれるものです。RSI では、比較的良くダイバージェンスが見られます。

価格は上昇しているのに、RSI の山を見ると下落している時がダイバージェンスです。

価格が上昇しているのに RSI が下落しているという事は、**価格の上昇幅が小さくなっており、上昇の勢いが弱まっている**ことを表しています。

■ 買い



逆張りの売りは、ボリバンの $+3\sigma$ にタッチした時に、RSIが70以上で推移していたらエントリーします。足が確定する前の $+3\sigma$ にタッチした所が入ります。

このように、レンジ相場を上に抜けると思いきや、 $+3$ にタッチした後に逆に振れることも多いのです。

移動平均線と雲でトレード

移動平均線と雲でトレード

ポイント

- ・移動平均線は 75 と 200 を使用
- ・一日均衡表の期間は 9、26、52 を使用
- ・雲の中で移動平均線にタッチしたらエントリー
- ・移動平均線にタッチするか保有期間を過ぎたら決済
- ・保有期間はエントリーする足によって変わる

ポイントはこの 4 つです。

さらに、利用する足によって、保有期間と損切りラインが決め、**決めた保有期間を過ぎたら利益が出ていても損失が出ていても決済**します。

損切りラインは pips で決めます。

1 分足～15 分足でエントリーした場合は、保有期間が 2～3 時間までで、損切りラインは 10 pips です。

これはあくまで一つの目安ですので、保有期間や損切りラインは、自分で調整しても構いません。

移動平均線のタッチでエントリー



移動平均線は、**青が 75** で、**紫が 200** です。

雲の中でローソク足が移動平均線にタッチした時点でエントリーします。上から下にタッチした時は「**HIGH**」でエントリーして、下から上にタッチした時は「**LOW**」でエントリーします。

決済ポイントは、再び足がエントリーした移動平均線にタッチした所です。

雲と移動平均線を組み合わせた 順張り・逆張り

雲と移動平均線を組み合わせた 順張り・逆張り

移動平均線と一目均衡表はどちらも人気があるテクニカル指標です。

一目均衡表は複雑なので、雲のみを使っている人も多いと思います。

移動平均線と雲を組み合わせたトレード手法はいくつもありますが、**移動平均線と雲を使い反発を狙った投資法**です。

「雲の中で移動平均線にタッチしたら」という条件でトレードしている人は多いと思います。

雲と移動平均線を使った トレード手法

ポイント

- ・移動平均線は 75 と 200 を使用
- ・一目均衡表の期間は 9、26、52 を使用
- ・雲の中で移動平均線にタッチしたら
エントリー
- ・時間足は自分のトレードスタイルに合わせる
- ・順張りとは逆張りに使える

75 と 200 のどちらもエントリーポイントになりますが、200 を基準にするとエントリーポイントがかなり少なくなります。

決済ポイントは基本的に 2 つのタイミングがあり、
1 つ目は再び移動平均線にタッチした時で、
2 つ目は決めた保有期間を過ぎた時です。

順張りトレード



上昇トレンド発生中に、雲の中でローソク足が上から下に75にタッチしたら「**HIGH**」でエントリーします。

移動平均線は紫が75で、緑が200です。



下降トレンドの時の順張りでは、足が線に雲の中で下から上にタッチした時に「**LOW**」でエントリーします。

逆張りトレード

逆張りは、上手くハマれば大きな利益になりますが、初心者には向かない方法です。



上昇トレンド中に、足が下から上にタッチした時に「**LOW**」でエントリーします。

逆張りの場合、移動平均線を大きくブレイクすることもあるので、注意が必要です！



下降トレンド中の逆張りは、足が線を上から下にタッチした時に「**HIGH**」エントリーします。

逆張りは入るタイミングが少なく、初心者向きではないので、まずは順張りで考えるのが良いでしょう。